

# イネ紋枯病に対するペンフルフェンを含む 育苗箱施用剤の防除効果

播種時(覆土前)～移植当日の1回処理で収穫期まで乗り切る！

## ペンフルフェン剤の特徴

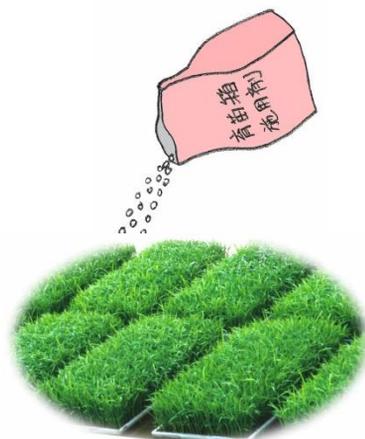
☆紋枯病に対して高い防除効果

オリサストロビン剤(嵐プリンス箱粒剤10等)と同等

(詳しくは裏面へ)

オリサストロビン剤の防除効果は下剤と同等

- ・フラメトピル剤(箱いり娘粒剤等)
- ・チフルザミド剤(ルーチンアドスピノGT箱粒剤等)



☆播種時(覆土前)～移植当日に50g/箱を散布するだけで

本田防除は必要なし

## イネ紋枯病



【紋枯病の病徴】



【収穫期の紋枯病による被害】  
(コシヒカリは被害を受けやすく、  
減収につながる！)

オリサストロビン剤(嵐プリンス箱粒剤等)の  
使用自粛と温暖化により発生ほ場増加傾向！

農薬の使用は用法・用量を守って、安全に！！

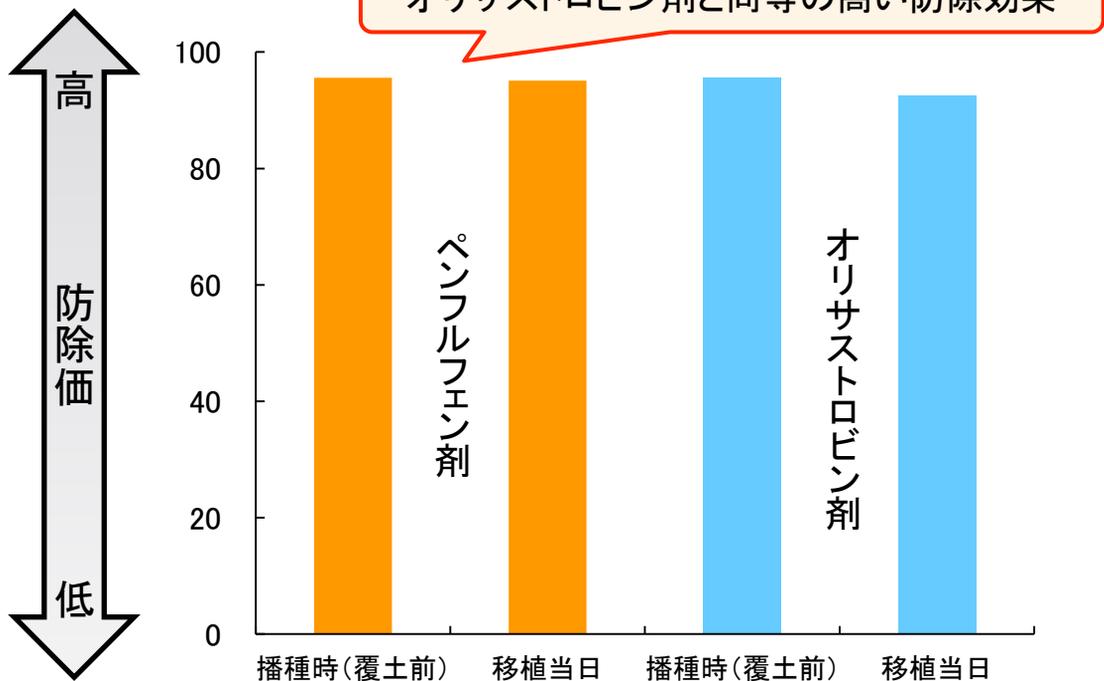


図. 早生品種におけるイネ紋枯病に対するペンフルフェン剤の育苗箱施用の防除効果 (2009～2010年、2012～2013年)

注) 試験場所: 鳥取市橋本(鳥取県農業試験場)

耕種概要: 品種; コシヒカリ、播種日; 5月1～3日、移植日; 5月24～26日(稚苗機械移植、18箱/10a)、出穂期; 8月3～12日

発病調査: 調査日; 9月2～10日、防除価: 被害度から算出、2009～2010年、2012～2013年の4試験例の平均値

薬剤処理: いずれの薬剤も処理量は50g/箱

### 【ペンフルフェンを含む新規育苗箱施用剤(2016年3月1日現在)】

- ・ルーチンエキスパート箱粒剤
- ・エバーゴルワイド箱粒剤
- ・エバーゴルプラス箱粒剤
- ・エバーゴルフォルテ箱粒剤

いずれの薬剤も50g/箱の播種時(覆土前)～移植当日処理により、イネいもち病(葉いもち)および初中期害虫に対しても安定した高い防除効果を示します(早生品種)

※エバーゴルフォルテ箱粒剤はチョウ目害虫に対する有効な成分を含んでいないので注意してください

### 注意事項

- ・ペンフルフェン剤には、播種前の床土もしくは覆土混和処理も可能な薬剤もありますが、処理方法によって対象病害虫が異なります
- ・育苗箱施用剤は規定量を均一に散布し、極端な疎植は避けましょう(薬剤の防除効果に影響します)
- ・本情報は早生品種を対象としており、中生品種については試験中です